

第 4 章 LAN 情報の設定

4.1 IP 関連情報

4.1.1 lan ip address

[機能]

IP アドレスの設定

[入力形式]

lan [<number>] ip address <address> /<mask> <broadcast>

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<address>/<mask>

- IP アドレス / マスクビット数 (またはマスク値)
LAN インタフェースに割り当てる IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - IP アドレス / マスクビット数 (例: 192.168.1.1 / 24)
 - IP アドレス / マスク値 (例: 192.168.1.1 / 255.255.255.0)

なお、IP アドレスに 0.0.0.0 を指定すると、通信できなくなります。

<broadcast>

ブロードキャストアドレスを指定します。

- 0
0.0.0.0 の場合に指定します。
- 1
255.255.255.255 の場合に指定します。
- 2
<address> / <mask> から求められる、ネットワークアドレス + オール 0 の場合に指定します。
- 3
<address> / <mask> から求められる、ネットワークアドレス + オール 1 の場合に指定します。

【説明】

本装置上の LAN インタフェースに、IP アドレス、マスクビット数 (またはマスク値)、およびブロードキャストアドレスを設定します。

LAN インタフェースに割り当てる IP アドレス、ネットマスクを設定します。IP アドレスを設定しないと通信できません。

【未設定時】

IP アドレスがないものとみなされます。

```
lan <number> ip address 0.0.0.0 0
```

4.1.2 lan ip alias

[機能]

セカンダリ IP アドレスの設定

[入力形式]

lan [<number>] ip alias <address>/<mask> <broadcast>

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<address>/<mask>

- セカンダリ IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
LAN インタフェースに割り当てるセカンダリ IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - セカンダリ IP アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.1/24)
 - セカンダリ IP アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.1/255.255.255.0)

<broadcast>

ブロードキャストアドレスを指定します。

- 0
0.0.0.0 の場合に指定します。
- 1
255.255.255.255 の場合に指定します。
- 2
<address>/<mask>から求められる、ネットワークアドレス + オール 0 の場合に指定します。
- 3
<address>/<mask>から求められる、ネットワークアドレス + オール 1 の場合に指定します。

[説明]

本装置上の LAN インタフェースに、セカンダリ IP アドレス、マスクビット数 (またはマスク値)、およびブロードキャストアドレスを設定します。

[注意]

セカンダリ IP アドレスが属するネットワークには、以下の機能を適用できません。

- RIP の送受信機能
- DHCP 機能

【未設定時】

セカンダリ IP アドレスがないものとみなされます。

```
lan <number> ip alias 0.0.0.0 0
```

4.1.3 lan ip dhcp service

[機能]

DHCP 機能の設定

[入力形式]

```
lan [<number>] ip dhcp service <mode> [<address1> [<address2>]]
```

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

DHCP 機能のモードを指定します。

- server
LAN インタフェースに対して DHCP サーバサービスを行います。
- relay
LAN インタフェースに対して DHCP リレーエージェントサービスを行います。
- off
LAN インタフェースに対して DHCP 機能を提供しません。

<address1>,<address2>

- DHCP サーバアドレス
<mode>に relay を指定した場合に有効なパラメタです。DHCP サービス要求を転送する、中継先 DHCP サーバの IP アドレスを 2 つまで指定することができます。

[説明]

LAN インタフェースに対して、DHCP 機能情報を設定します。

[未設定時]

DHCP サーバ機能を使用しないものとみなされます。

```
lan <number> ip dhcp service off
```

4.1.4 lan ip dhcp info

[機能]

DHCP 配布情報の設定

[入力形式]

```
lan [<number>] ip dhcp info dns <dns1> [<dns2>]  
lan [<number>] ip dhcp info address <address>/<mask> [<num>]  
lan [<number>] ip dhcp info time <time>  
lan [<number>] ip dhcp info gateway <gateway>  
lan [<number>] ip dhcp info domain [<domain>]
```

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<dns1>

- DNS サーバ IP アドレス
DHCP クライアントに配布する、DNS サーバの IP アドレスを指定します。
0.0.0.0 を指定した場合は、設定が削除されます。

<dns2>

- セカンダリ DNS サーバ IP アドレス
DHCP クライアントに配布する、セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを指定します。
0.0.0.0 を指定した場合は、設定が削除されます。

<address>/<mask>

- 割り当て開始 IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
DHCP クライアントにリースする先頭アドレス (IP アドレスとマスクビット数の組み合わせ) を指定します。
マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - IP アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.2/24 注)
 - IP アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.2/255.255.255.0 注)
<num>が 16、<address>が 192.168.1.2 の場合に、192.168.1.2 ~ 192.168.1.17 のアドレスがリースされます。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定した場合は、設定が削除されます。

<num>

- 割り当てアドレス数
“4.1.3 lan ip dhcp service” の<mode>に server を指定した場合にだけ有効です。
DHCP サーバサービスの場合に、割り当て可能な IP アドレスの総数を 1 ~ 64 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、32 を指定したものとみなされます。

ホストデータベース機能を使用すると、特定の DHCP クライアントに対して固有の IP アドレスを割り当てることができます。この場合の IP アドレスは、割り当て先頭 IP アドレスと割り当てアドレス数によって規定される動的割当て範囲である必要はありません。

<time>

- 割り当て時間

DHCP クライアントに配布する情報の有効時間を、0 秒～365 日の範囲で指定します。

単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

0 秒を指定した場合は、設定が削除され、有効時間監視なし (無限) とみなされます。

<gateway>

- デフォルトルータ IP アドレス

DHCP クライアントに配布する、デフォルトルータの IP アドレスを設定します。

0.0.0.0 を指定した場合は、設定が削除されます。

<domain>

- ドメイン名

DHCP クライアントに配布するドメイン名を、英数字、"-"(ハイフン)、"."(ピリオド) で構成される 80 文字以内の ASCII 文字列で指定します。

省略した場合は、設定が削除されます。

【説明】

DHCP サーバ機能を使用する場合に、クライアントに配布する情報を設定します。

【未設定時】

DHCP で配布される情報は設定されないものとみなされます。

4.1.5 lan ip route add

[機能]

IPv4 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) の設定

[入力形式]

```
lan [<number>] ip route add <address>/<mask> <next_hop> [<metric> [<distance>]]
```

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<address>/<mask>

- IPv4 アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
宛先ネットワークを IPv4 アドレスとマスクビット数の組み合わせで指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。以下に、有効な記述形式を示します。
 - IPv4 アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.0/24)
 - IPv4 アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.0/255.255.255.0)
- default
宛先ネットワークとしてデフォルトルートを設定する場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<next_hop>

- 中継ルータ IPv4 アドレス
宛先ネットワークへパケットを送信するときの中継ルータの IPv4 アドレスを指定します。

<metric>

- RIP メトリック値
このスタティックルーティング情報を RIP で広報する場合のメトリック値を、1 ~ 15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、1 を指定したものとみなされます。
RIP 広報メトリック値は、以下の計算式で決定されます。
 - RIP 広報メトリック値 = 出力インタフェースの設定メトリック値 + 1 + <metric>

<distance>

- 優先度
このスタティックルーティング情報の優先度を、0 ~ 254 の 10 進数値で指定します。優先度は値が小さい方が高い優先度を示します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

[説明]

LAN インタフェースに対して、IPv4 スタティックルーティング (静的経路) を設定します。<distance>で設定した優先度は、IPv4 ルーティングプロトコルで受信した経路の優先度と比較され同じ経路の場合は優先度の高い方が選択されます。

IPv4 スタティックルーティング情報は、本装置全体で 64 個まで定義できます。

【注意】

<address>/<mask>がまったく同じ宛先に対し、1 つのスタティックルーティング情報が設定できます。

【未設定時】

IPv4 スタティックルーティング情報を設定しないものとみなされます。

4.1.6 lan ip route modify

[機能]

IPv4 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) の修正

[入力形式]

```
lan [<number>] ip route modify <old_address>/<old_mask> <new_address>/<new_mask>  
<new_next_hop> [<new_metric> [<new_distance>]]
```

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<old_address>/<old_mask>

- IPv4 アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
修正前の宛先ネットワークを IPv4 アドレスとマスクビット数の組み合わせで指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。以下に、有効な記述形式を示します。
 - IPv4 アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.0/24)
 - IPv4 アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.0/255.255.255.0)
- default
修正前の宛先ネットワークにデフォルトルートを設定している場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<new_address>/<new_mask>

- IPv4 アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
新しい宛先ネットワークを IPv4 アドレスとマスクビット数の組み合わせで指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。以下に、有効な記述形式を示します。
 - IPv4 アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.0/24)
 - IPv4 アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.0/255.255.255.0)
- default
新しい宛先ネットワークとしてデフォルトルートを設定する場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<new_next_hop>

- 新しい中継ルータ IPv4 アドレス
宛先ネットワークへパケットを送信するときの新しい中継ルータの IPv4 アドレスを指定します。

<new_metric>

- 新しいメトリック値
新しいメトリック値を、1～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、1 を指定したものとみなされます。

<new_distance>

- 新しい優先度
新しい優先度を、0～254 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

【説明】

IPv4 スタティックルーティング情報を修正します。

4.1.7 lan ip route delete

【機能】

IPv4 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) の削除

【入力形式】

```
lan [<number>] ip route delete <address>/<mask>
```

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<address>/<mask>

- IPv4 アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
削除する宛先ネットワークを IPv4 アドレスとマスクビット数の組み合わせで指定します。
- default
デフォルトルートを削除する場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。
- all
すべてのスタティックルーティングを削除する場合に指定します。

【説明】

IPv4 スタティックルーティング情報を削除します。

4.1.8 lan ip rip

[機能]

ダイナミックルーティング情報 (RIP) の設定

[入力形式]

lan [<number>] ip rip <send> <receive> <metric> [<ignore> [<password>]]

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<send>

RIP の送信について指定します。

- v1
RIPv1(Broadcast) を送信します。
- v2
RIPv2(Broadcast) を送信します。
- v2m
RIPv2(Multicast) を送信します。
- off
RIP を送信しません。

<receive>

RIP の受信について指定します。

- v1
RIPv1 を受信します。
- v2
RIPv1, RIPv2 を受信します。
- off
RIP を受信しません。

<metric>

- 加算メトリック値
RIP 情報の加算メトリック値を、0～16 の 10 進数値で指定します。
RIP 広報メトリック値は、以下の計算式で決定されます。
- RIP 広報メトリック値=RIP 受信パケットのメトリック値+1+<metric>

<ignore>

自装置に<password>を設定していないときに、パスワード付きの RIPv2 パケットを受信したときの破棄の動作を指定します。

省略した場合は、off を指定したものとみなされます。

- on
受信した RIPv2 パケットを破棄します。
- off
受信した RIPv2 パケットを破棄しません。

<password>

- RIPv2 パスワード

<send>または<receive>に v2 を指定した場合のパスワードを、0x21,0x23 ~ 0x7e のコードで構成される 16 文字以内の ASCII 文字列で指定します。

省略した場合は、パスワードなしとみなされます。

【説明】

LAN インタフェースに、IPv4 ダイナミックルーティング情報 (RIP) を設定します。

ダイナミックルーティングとはルータ間でルーティング情報をやりとりすることで、その都度最適なルートを選択してデータ通信を行う方法です。

【未設定時】

IPv4 ダイナミックルーティング (RIP) を使用しないものとみなされます。

```
lan <number> ip rip off off 0 off
```

4.2 IPv6 関連情報

4.2.1 lan ip6 use

[機能]

IPv6 機能の設定

[入力形式]

lan [<number>] ip6 use <mode>

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

IPv6 パケットの送受信を行うかどうか指定します。

- on
このインタフェースで、IPv6 パケットの送受信を行います。
- off
このインタフェースで、IPv6 パケットの送受信を行いません。

[説明]

このインタフェースで、IPv6 機能を利用するかどうかを設定します。

[未設定時]

IPv6 機能を利用しないものとみなされます。

```
lan <number> ip6 use off
```

4.2.2 lan ip6 ifid

[機能]

IPv6 インタフェース ID の設定

[入力形式]

lan [<number>] ip6 ifid <interfaceID>

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<interfaceID>

このインタフェースで利用する ID を指定します。

- auto
本装置が持つ MAC アドレスから、EUI-64 形式の ID を自動生成する場合に指定します。
- インタフェース ID
このインタフェースで利用する ID を、16 進数値で指定します。4 桁ずつ ":"(コロン) で区切ってください。なお、各フィールドの先頭の 0 は省略できます (例: 2a0:c9ff:fe84:759)。

通常は auto を指定してください。特定のインタフェース ID を指定する場合は、同一の link 上でホストと衝突しない値を指定してください。

[説明]

このインタフェースで利用する、インタフェース ID を設定します。

[未設定時]

インタフェース ID を自動生成するものとみなされます。

```
lan <number> ip6 ifid auto
```

4.2.3 lan ip6 address

[機能]

IPv6 アドレスの設定

[入力形式]

lan [<number>] ip6 address <count> <address> /<prefixlen> <valid> <preferred> [<flags>]

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- IPv6 アドレス定義番号
IPv6 アドレスの定義番号を、0～3 の 10 進数値で指定します。

<address>

- IPv6 アドレス
128-bit の IPv6 アドレスを指定します。

<prefixlen>

- プレフィックス長
IPv6 アドレスに対するプレフィックス長として、64 を指定します。

<valid>

- valid lifetime の時間
このインタフェースから RA(Router Advertisement メッセージ)を送信するときに、このプレフィックスに対する valid lifetime を、0 秒～365 日の範囲で指定します。
単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒)のいずれかを指定します。
- infinity
このインタフェースから RA を送信するときに、このプレフィックスに対する valid lifetime を無限とする場合に指定します。

<preferred>

- preferred lifetime の時間
このインタフェースから RA を送信する場合に、このプレフィックスに対する preferred lifetime を、0 秒～365 日の範囲で指定します。
単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒)のいずれかを指定します。
<preferred>は、<valid>よりも短い時間となるように設定してください。<preferred>が<valid>よりも大きい場合、<valid>と同じ時間として扱われます。
- infinity
このインタフェースから RA を送信する場合に、このプレフィックスに対する preferred lifetime を無限とします。

<flags>

- RA Prefix Information に付与されるフラグ
このインタフェースから RA を送出する場合に、この prefix に対する flags フィールドの値を 16 進数値で設定します。
省略した場合は、c0 を指定したものとみなされます。

【説明】

このインタフェースにおける IPv6 アドレスを設定します。

<address>の指定において、<prefixlen>以降がすべて 0 の場合には、指定した値は IPv6 プレフィックスであると判断されます。この IPv6 プレフィックスとインタフェース ID によって、IPv6 アドレスが生成されます。

【未設定時】

Link local アドレス以外の IPv6 アドレスを設定しないものとみなされます。

4.2.4 lan ip6 address delete

【機能】

IPv6 アドレスの削除

【入力形式】

lan [<number>] ip6 address delete <count>

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- IPv6 アドレス定義番号
削除する IPv6 アドレスの定義番号を指定します。
- all
すべての IPv6 アドレスを削除する場合に指定します。

【説明】

IPv6 アドレスを削除します。

4.2.5 lan ip6 ra mode

【機能】

Router Advertisement の動作の設定

【入力形式】

lan [<number>] ip6 ra mode <mode>

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

- off
RA の送信を行いません。
定期送信、および host からの RS に対する RA の送信を行いません。
- send
RA の送信を行います。
定期送信、および host からの RS に対する RA の送信を行います。

【説明】

RA(Router Advertisement メッセージ)を送信するかどうかを設定します。

【未設定時】

RA の送信を行わないものとみなされます。

```
lan <number> ip6 ra mode off
```

4.2.6 lan ip6 ra interval

[機能]

Router Advertisement メッセージ送信間隔の設定

[入力形式]

lan [<number>] ip6 ra interval <max> <min> <lifetime>

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<max>

- 最大送信間隔
RA を定期送信する場合の最大送信間隔 (秒) を、4 ~ 1800 の 10 進数値で設定します。

<min>

- 最小送信間隔
RA を定期送信する場合の最小送信間隔 (秒) を、 $3 \sim \text{<max>} \times 3/4$ の 10 進数値で設定します。

<lifetime>

- Router Lifetime の値
送信する RA の Router Lifetime の値を、0 または <max> ~ 9000 の 10 進数値で設定します。

[説明]

RA の送信間隔、および RA の Router Lifetime の値の設定を行います。RA は <min> ~ <max> でランダムに決定された間隔で定期送信されます。

[未設定時]

最大送信間隔に 600 秒、最小送信間隔に 200 秒、Router Lifetime の値に 1800 が設定されたものとみなされます。

```
lan <number> ip6 ra interval 600 200 1800
```

4.2.7 lan ip6 ra mtu

【機能】

Router Advertisement メッセージに含める MTU option の設定

【入力形式】

lan [<number>] ip6 ra mtu <mtu>

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mtu>

- MTU option の内容
RA に含める MTU option の値を、0 または 1280 ~ 1500 の 10 進数値で設定します。
0 を指定した場合は、RA に MTU option を含めません。

【説明】

RA に含める MTU option の値を設定します。

【未設定時】

送信する RA に MTU option を含めないものとみなされます。

lan <number> ip6 ra mtu 0

4.2.8 lan ip6 ra reachabletime

【機能】

Router Advertisement メッセージに含める Reachable Time の設定

【入力形式】

```
lan [<number>] ip6 ra reachabletime <reachabletime>
```

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<reachabletime>

- Reachable Time の値
RA に含める Reachable Time の値を、0 ~ 3600000 の 10 進数値で設定します。

【説明】

RA に含める Reachable Time の値を設定します。

【未設定時】

Reachable Time の値として 0 が設定されたものとみなされます。

```
lan <number> ip6 ra reachabletime 0
```

4.2.9 lan ip6 ra retrans timer

【機能】

Router Advertisement メッセージに含める Retrans Timer の設定

【入力形式】

lan [<number>] ip6 ra retrans timer <retrans timer>

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<retrans timer>

- Retrans Timer の値
RA に含める Retrans Timer の値を、0 ~ 4294967295 の 10 進数値で設定します。

【説明】

RA に含める Retrans Timer の値を設定します。

【未設定時】

Retrans Timer の値として 0 が設定されたものとみなされます。

```
lan <number> ip6 ra retrans timer 0
```

4.2.10 lan ip6 ra curhoplimit

【機能】

Router Advertisement メッセージに含める Cur Hop Limit の設定

【入力形式】

```
lan [<number>] ip6 ra curhoplimit <curhoplimit>
```

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<curhoplimit>

- Cur Hop Limit の値
RA に含める Cur Hop Limit の値を、0～255 の 10 進数値で設定します。

【説明】

RA に含める Cur Hop Limit の値を設定します。

【未設定時】

Cur Hop Limit の値として 64 が設定されたものとみなされます。

```
lan <number> ip6 ra curhoplimit 64
```

4.2.11 lan ip6 ra flags

【機能】

Router Advertisement メッセージに含める flags field の設定

【入力形式】

lan [<number>] ip6 ra flags <flags>

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<flags>

- flags field の値
RA に含める flags field の値を、00 ~ ff の 16 進数値で設定します。

【説明】

RA に含める flags field の値を設定します。

【未設定時】

flags field の値として 00 が設定されたものとみなされます。

```
lan <number> ip6 ra flags 00
```

4.2.12 lan ip6 route add

【機能】

IPv6 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) の設定

【入力形式】

```
lan [<number>] ip6 route add <address>/<prefixlen> <next_hop> [<metric>]
```

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<address>/<prefixlen>

- IPv6 アドレス/プレフィックス
宛先ネットワークを IPv6 アドレスとプレフィックスの組み合わせを指定します。
- default
宛先ネットワークとしてデフォルトルートを設定する場合に指定します。
::/0 を指定するのと同じ意味になります。

<next_hop>

- 中継ルータ IPv6 アドレス
宛先ネットワークへパケットを送信するときの中継ルータの IPv6 アドレスを指定します。
ICMPv6redirect を正常に動作させるため、link-local address を指定してください。また、中継ルータが存在するネットワーク設定側に対して、適切にスタティックルートを設定してください。

<metric>

- メトリック値
このスタティックルーティング情報を RIPng で広報する場合のメトリック値を、1～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、1 を指定したものとみなされます。
RIPng 広報メトリック値は、以下の計算式で決定されます。
- RIPng 広報メトリック値=出力インタフェースの設定メトリック値+1+<metric>

【説明】

IPv6 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) を設定します。
IPv6 スタティックルーティング情報は、本装置全体で 64 個まで定義できます。

【未設定時】

IPv6 スタティックルーティング情報を設定しないものとみなされます。

4.2.13 lan ip6 route modify

[機能]

IPv6 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) の修正

[入力形式]

```
lan [<number>] ip6 route modify <old_address>/<old_prefixlen>  
<new_address>/<new_prefixlen> <new_next_hop> [<new_metric>]
```

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<old_address>/<old_prefixlen>

修正前の IPv6 アドレスとプレフィックスの組み合わせを指定します。

- IPv6 アドレス/プレフィックス
既に定義されている宛先ネットワークの IPv6 アドレスとプレフィックスの組み合わせを指定します。
- default
宛先ネットワークとしてデフォルトルートに登録する場合に指定します。
::/0 を指定するのと同じ意味になります。

<new_address>/<new_prefixlen>

新しい IPv6 アドレスとプレフィックスの組み合わせを指定します。

- IPv6 アドレス/プレフィックス長
新しい宛先ネットワークの IPv6 アドレスとプレフィックス長の組み合わせを指定します。
- default
宛先ネットワークとしてデフォルトルートに登録する場合に指定します。
::/0 を指定するのと同じ意味になります。

<new_next_hop>

- 新しい中継ルータ IPv6 アドレス
宛先ネットワークへパケットを送信する場合の、中継ルータ IPv6 アドレスを指定します。

<new_metric>

- 新しいメトリック値
新しいメトリック値を、1～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、1 を指定したものとみなされます。

[説明]

IPv6 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) を修正します。

4.2.14 lan ip6 route delete

[機能]

IPv6 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) の削除

[入力形式]

```
lan [<number>] ip6 route delete <address>/<prefixlen>
```

[パラメタ]**<number>**

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<address>/<prefixlen>

削除する IPv6 アドレスとプレフィックス長を指定します。

- IPv6 アドレス/プレフィックス長
削除する IPv6 アドレスとプレフィックス長の組み合わせを指定します。
- all
すべてのスタティックルーティングを削除する場合に指定します。

[説明]

IPv6 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) を削除します。

4.2.15 lan ip6 ripng

[機能]

ダイナミックルーティング情報 (RIPng) の設定

[入力形式]

lan [<number>] ip6 ripng <send> <receive> [<site> [<metric>]]

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<send>

RIPng パケットを定期送信するかどうか指定します。

- on
RIPng パケットを定期送信します。
- off
RIPng パケットを定期送信しません。

<receive>

RIPng パケットを受信するかどうか指定します。

- on
RIPng パケットを受信します。
- off
RIPng パケットを受信しません。

<site>

site-local prefix を送受信するかどうか指定します。

- on
site-local prefix を送受信します。
- off
site-local prefix を送受信しません。

<send>および<receive>に off を指定した場合は、本パラメタにも off を指定してください。
省略した場合は、off を指定したものとみなされます。

<metric>

- 加算メトリック値
RIPng 情報の加算メトリック値を、0～16 の 10 進数値で指定します。
<send>に off を指定した場合は省略できます。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。
RIPng 広報メトリック値は、以下の計算式で決定されます。
- RIPng 広報メトリック値=RIPng 受信パケットのメトリック値+1+<metric>

[説明]

このインタフェースでの IPv6 ダイナミックルーティングの動作を設定します。

【未設定時】

IPv6 ダイナミックルーティング機能を使用しないものとみなされます。

```
lan <number> ip6 ripng off off off 0
```

4.2.16 lan ip6 aggregate

【機能】

ダイナミックルーティング情報 (RIPng) における経路集約の設定

【入力形式】

```
lan [<number>] ip6 aggregate <count> <address> / <prefixlen> <rejectroute>
```

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- 集約経路定義番号
集約経路の定義番号を、0～3 の 10 進数値で指定します。

<address>/<prefixlen>

- IPv6 アドレス/プレフィックス長
集約経路の宛先ネットワークを IPv6 アドレスとプレフィックス長の組み合わせを指定します。
- default
集約経路としてデフォルトルートを登録する場合に指定します。::/0 を指定するのと同じ意味になります。

<rejectroute>

- on
集約経路に対する破棄経路を設定します。
- off
集約経路に対する破棄経路を設定しません。

【説明】

RIPng における集約経路の設定を行います。

集約経路が設定された場合には、設定された集約経路に含まれる個々の経路は広報されず、集約経路だけを広報します。また、集約経路と等しいネットワークに対する経路情報を持たない場合には、実際に持たない宛先に対するパケットを破棄するために、設定された集約経路に対する破棄経路を設定することもできます。

同一 lan 定義内に同一の集約経路は設定できません。

【未設定時】

経路集約は行わないものとみなされます。

4.2.17 lan ip6 aggregate delete

[機能]

ダイナミックルーティング情報 (RIPng) における経路集約の削除

[入力形式]

```
lan [<number>] ip6 aggregate delete <count>
```

[パラメタ]**<number>**

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- 集約経路定義番号
削除する集約経路の定義番号を、0～3 の 10 進数値で指定します。
- all すべての集約経路を削除する場合に指定します。

[説明]

集約経路の削除を行います。

4.3 ブリッジ関連情報

4.3.1 lan bridge use

[機能]

ブリッジ動作モードの設定

[入力形式]

lan [<number>] bridge use <mode>

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

ブリッジを使用するかどうかを指定します。

- on
ブリッジを使用する場合に指定します。
- off
ブリッジを使用しない場合に指定します。

[説明]

ブリッジを使用するかどうかを設定します。
ブリッジを使用する場合、IP および IPv6 のパケット以外をすべてブリッジします。

[注意]

IP および IPv6 以外のネットワークプロトコル (IPX など) をルーティングしているネットワークでブリッジを使用する場合は、ブリッジによって中継されることでネットワークがダウンすることがあります。ルーティングと併用する場合は、ルーティングによって転送するプロトコルをフィルタリングするように設定してください。

[未設定時]

ブリッジを使用しないものとみなされます。

lan <number> bridge use off

4.3.2 lan bridge stp use

【機能】

STP 動作モード の設定

【入力形式】

lan [<number>] bridge stp use <mode>

【パラメタ】**<number>**

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

- on
STP を使用する場合に指定します。
- off
STP を使用しない場合に指定します。

【説明】

スパニングツリーアルゴリズムで経路制御を行うかどうかを設定します。
本コマンドは、ブリッジを使用している場合にだけ有効です。

【未設定時】

STP を使用しないものとみなされます。

```
lan <number> bridge stp use off
```

4.3.3 lan bridge stp cost

[機能]

パスコストの設定

[入力形式]

```
lan [<number>] bridge stp cost <path_cost>
```

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<path_cost>

LAN を経由する通信のパスコストを指定します。

- auto
インタフェースの速度に応じて、パスコストが自動決定されます。
以下に、本パラメタ指定時のパスコストを示します。

回線種別	パスコスト
Ethernet(10Mbps)	100
HSD(64kbps)	15620
HSD(128kbps)	7810
FR(64kbps)	16000
FR(128kbps)	8500
ISDN(64kbps)	16000

- パスコスト
パスコストを、1～65535 の 10 進数値で指定します。値が小さいほど、優先度が高くなります。
通常は auto を指定してください。ただし、ブリッジネットワークを構築する上で、優先ブリッジ決定のために任意のパスコストを指定することができます。

[説明]

スパニングツリーアルゴリズムで使用するパスコストを設定します。
本コマンドは、STP を使用する場合にだけ有効です。

[未設定時]

パスコストを自動決定するとみなされます。

```
lan <number> bridge stp cost auto
```

4.3.4 lan bridge stp priority

【機能】

インタフェース優先度の設定

【入力形式】

```
lan [<number>] bridge stp priority <port_priority>
```

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<port_priority>

- インタフェース優先度
インタフェースごとの優先度を、0～255 の 10 進数値で指定します。値が小さいほど、優先度が高くなります。

【説明】

スパニングツリーアルゴリズムで使用する、インタフェースごとの優先度を設定します。

本コマンドは、STP を使用する場合にだけ有効です。

本コマンドを設定しない場合は、<number>で指定したインタフェースが優先となり、remote 定義で定義されたインタフェースが非優先となります。lan 定義内で定義されたインタフェースでは、定義番号の最も小さいものが優先されます。

【未設定時】

インタフェース優先度に 128 が設定されたものとみなされます。

```
lan <number> bridge stp priority 128
```

4.4 VRRP 関連情報

4.4.1 lan vrrp use

[機能]

VRRP 動作モード の設定

[入力形式]

lan [<number>] vrrp use <mode>

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

VRRP 機能を使用するかどうかを指定します。

- on
VRRP を使用する場合に指定します。
<number>で指定した LAN インタフェースで VRRP が機能します。
- off
VRRP を使用しない場合に指定します。
<number>で指定した LAN インタフェースで VRRP は機能しません。

[説明]

この LAN インタフェースで、VRRP 機能を使用するかどうかを設定します。

VRRP 機能を使用しないと設定した場合、<number>で指定した LAN インタフェースでは VRRP 機能が動作しません。

[未設定時]

VRRP 機能を使用しないものとみなされます。

```
lan <number> vrrp use off
```

4.4.2 lan vrrp auth

[機能]

VRRP-AD の認証方法と認証パスワードの設定

[入力形式]

lan [<number>] vrrp auth <method> [<password>]

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<method>

認証方法について指定します。

- none
<number>で指定した LAN インタフェースで VRRP-AD の認証を行いません。
- text
<number>で指定した LAN インタフェースはテキストパスワードを用いて VRRP-AD の認証を行います。

<password>

- 認証パスワード
<method>に text を指定した場合、<number>で指定した LAN インタフェースで使用する VRRP-AD の認証パスワードを、0x21,0x23 ~ 0x7e の 8 桁以内の ASCII 文字列で指定します。

[説明]

この LAN インタフェースで VRRP-AD の認証に使用する認証方法と認証パスワードを設定します。
設定はこの LAN インタフェースに関する VRRP グループのすべてに適用されます。
<method>に text を指定した場合は、パスワードを設定する必要があります。<method>に none を指定した場合、パスワードは指定できません。

[未設定時]

VRRP-AD の認証を使用しないものとみなされます。

```
lan <number> vrrp auth none
```

4.4.3 lan vrrp group id

[機能]

VRRP グループの設定

[入力形式]

lan [<number>] vrrp group <vrrp_number> id <vrid> <priority> [<virtual_ip#1> [<virtual_ip#2>]]

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<vrrp_number>

- VRRP グループ定義番号
LAN インタフェースに対する VRRP グループ定義の通し番号を、0～1 の 10 進数値で指定します。

<vrid>

- VRID
<vrrp_number>で定義した VRRP グループの保持する VRID を、1～255 の 10 進数値で指定します。
VRID は装置内で一意でなければなりません。重複した VRID を指定した場合は<number>および<vrrp_number>の最小である設定のみが有効となり、他はすべて無効となります。

<priority>

- VRRP ルータの優先度
VRRP ルータの優先度を、"master"、もしくは 1～254 の 10 進数値で指定します。<priority>に"master"を指定した場合、VRRP グループは優先度 255 のマスタールータとして動作します。この場合、仮想ルータの IPv4 アドレスは<number>で指定した LAN インタフェースの実 IPv4 アドレスになります。
lan <number> ip address <address> /<mask> <broadcast> で設定された<address>が実 IPv4 アドレスです。
それ以外の場合、VRRP グループは<priority>で指定した優先度のバックアップルータとして動作します。
VRRP ルータの優先度は数値が大きいほど高くなります。
トリガを使用する場合は優先度 1 の設定はさけてください。また、トリガを使用する場合は"master"を指定するとトリガが作動した場合に VRRP グループが設定された LAN が通信不能となります。トリガを使用する場合は"master"を指定しないでください。

<virtual_ip#X>

- 仮想ルータの IPv4 アドレス
VRRP グループで使用する仮想ルータの IPv4 アドレスを指定します。アドレス"0.0.0.0"または"255.255.255.255"は指定不可です。
<priority>に"master"を指定した場合は、仮想ルータの IPv4 アドレスは<number>で指定した LAN インタフェースの実 IPv4 アドレスとなるため、指定する事はできません。このときセカンダリ IPv4 アドレスが設定されている場合はセカンダリ IPv4 アドレスも仮想ルータの IPv4 アドレスとなります。
lan <number> ip alias <address> /<mask> <broadcast> で設定された<address>がセカンダリ IPv4 アドレスです。
それ以外の場合は、1 つ以上の仮想ルータの IPv4 アドレスを指定しなければなりません。また、その場合は VRRP グループ内で重複した仮想ルータの IPv4 アドレスを設定することはできません。仮想

ルータの IPv4 アドレスに装置内のインタフェース実 IPv4 アドレスまたは、セカンダリ IPv4 アドレスを指定した場合は、この VRRP グループは無効となります。

【説明】

VRRP グループの VRID、優先度、仮想ルータの IPv4 アドレスを設定します。

マスタールータの設定は VRRP グループにつき 1 台の VRRP ルータにのみ行ってください。複数のマスタールータを設定した場合、仮想ルータを正しくバックアップすることができません。(VRRP グループで同一の仮想ルータの IPv4 アドレスが設定できないため。)

VRRP グループは VRID によって識別される同一 VRRP グループ内で優先度を競合し、マスタールータを決定します。

VRRP グループの仮想 MAC アドレスは VRID から自動的に生成されます。(00:00:5E:00:01:{VRID})
バックアップルータとして優先度を設定した場合でも、指定した優先度が同一 VRRP グループ内で最も高い優先度であればマスタールータとして動作します。また、VRRP ルータの優先度は VRRP グループ内で、できるだけ大きな差がつくように設定してください。近い優先度であった場合、マスタールータの切り替わりがスムーズに行われない場合があります。

VRRP 機能を使用する場合、本定義は必須定義であり未設定の場合は VRRP 機能が動作しません。

【未設定時】

VRRP グループの情報は設定されないものとみなされます。

4.4.4 lan vrrp group ad

[機能]

VRRP-AD の設定

[入力形式]

```
lan [<number>] vrrp group <vrrp_number> ad <interval>
```

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<vrrp_number>

- VRRP グループ定義番号
LAN インタフェースに対する VRRP グループ定義の通し番号を、0 ~ 1 の 10 進数値で指定します。

<interval>

- VRRP-AD 送出間隔
VRRP-AD の送出間隔を、1 秒 ~ 255 秒の範囲で指定します。単位は、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

[説明]

該当する自装置 VRRP グループが使用する VRRP-AD の送信間隔時間を設定します。
同一 VRRP グループ内では送出間隔時間を同じ値に設定してください。異なる値が設定された場合はスムーズにマスタルータの交代が行われなくなる可能性があります。

[未設定時]

VRRP-AD の送出間隔として 1 秒が設定されたものとみなされます。

```
lan <number> vrrp group <vrrp_number> ad 1s
```

4.4.5 lan vrrp group preempt

[機能]

プリエンプトモードの設定

[入力形式]

```
lan [<number>] vrrp group <vrrp_number> preempt <mode> [<time>]
```

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<vrrp_number>

- VRRP グループ定義番号
LAN インタフェースに対する VRRP グループ定義の通し番号を、0 ~ 1 の 10 進数値で指定します。

<mode>

プリエンプトモードを指定します。

- on
<vrrp_number> で指定した VRRP グループでプリエンプトモードを ON に設定します。
- off
<vrrp_number> で指定した VRRP グループでプリエンプトモードを OFF に設定します。

<time>

- プリエンプトモード OFF への移行禁止時間
VRRP が動作を開始してから、プリエンプトモード OFF へ移行するのを禁止する時間として 0 秒 ~ 900 秒の範囲で指定します。
単位は、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。
省略した場合は、0 秒を指定したものとみなされます。
なお、<mode> が off に設定されている場合にのみ有効であり、<mode> が on に設定される場合は指定できません。
禁止時間内ではプリエンプトモードが ON に設定されたのと同様に動作します。この設定はシステム起動時に優先度の低いルータが先に動作を開始して、優先度の高いルータにマスタルータが渡されないようなことが発生する場合に有効です。

[説明]

VRRP グループのプリエンプトモードを設定します。

[未設定時]

プリエンプトモードに ON が設定されたものとみなされます。

```
lan <number> vrrp group <vrrp_number> preempt on
```

4.4.6 lan vrrp group trigger ifdown

【機能】

インタフェーストリガイベントの設定

【入力形式】

```
lan [<number>] vrrp group <vrrp_number> trigger <trigger_no> ifdown <interface> [<priority>]
```

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<vrrp_number>

- VRRP グループ定義番号
LAN インタフェースに対する VRRP グループ定義の通し番号を、0～1 の 10 進数値で指定します。

<trigger_no>

- トリガイベント定義番号
VRRP グループに対するトリガイベント定義の通し番号を、0～49 の 10 進数値で指定します。

<interface>

トリガイベント対象インタフェースを指定します。

- インタフェース名
rmt0～rmt47 の範囲で指定します。
- any
ループバックインタフェース以外すべてのパケット送出インタフェースをトリガイベント対象に含める場合に指定します。

<priority>

- 優先度
変化させる優先度を、1～254 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、254 を指定したものとみなされます。

【説明】

インタフェーストリガイベントを設定します。

<interface>で指定したインタフェースがダウンした場合、トリガイベントを適用します。

<interface>で指定したインタフェースが有効ではないインタフェースであった場合はトリガイベントは動作しません。また、同一インタフェースに重複してトリガイベントが設定された場合はすべてを適用します。

<interface>がリモートインタフェースである場合、ケーブル抜け、同期はずれ、または PVC 状態確認手順によって通信不可と判断された該当インタフェースに設定されたトリガイベントを適用します。

トリガイベントが適用された場合、VRRP グループの現在の優先度から<priority>で指定した値を減算した優先度の VRRP ルータとして動作します。

<priority>で優先度を減算すると 1 以下になる場合は、優先度 1 の VRRP ルータとして動作します。

【注意】

HUB である LAN インタフェース、または物理インタフェース以外を<interface>に指定してもインタフェーストリガイベントは動作しません。

【未設定時】

インタフェーストリガイベントは設定されないものとみなされます。

4.4.7 lan vrrp group trigger node

[機能]

ノードトリガイイベントの設定

[入力形式]

```
lan [<number>] vrrp group <vrrp_number> trigger <trigger_no> node <dst_addr> <interface>
[<priority> [<resend_time> [<time_out> [<normal_interval> [error_interval]]]]]
```

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<vrrp_number>

- VRRP グループ定義番号
LAN インタフェースに対する VRRP グループ定義の通し番号を、
0～1 の 10 進数値で指定します。

<trigger_no>

- トリガイイベント定義番号
VRRP グループに対するトリガイイベント定義の通し番号を、
0～49 の 10 進数値で指定します。

<dst_addr>

- ICMP ECHO パケットの宛先 IP アドレス
ICMP ECHO パケットの宛先 IP アドレスを指定します。

<interface>

ICMP ECHO パケットを送出するインタフェースを指定します。

- インタフェース名
rmt0～rmt47 の範囲で指定します。
- any
パケット送出インタフェースを特定しない場合に指定します。

<priority>

- 優先度
変化させる優先度を、1～254 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、254 を指定したものとみなされます。

<resend_time>

- ICMP ECHO パケットの再送間隔
ICMP ECHO パケットの再送間隔を、1 秒～60 秒の範囲で指定します。
単位は、m(分)、s(秒)のいずれかを指定します。
省略した場合は、5 秒を指定したものとみなされます。

<time_out>

- ICMP ECHO のタイムアウト時間
ICMP ECHO のタイムアウト時間を、<resend_time>+1 秒～240 秒の範囲で指定します。
単位は、m(分)、s(秒)のいずれかを指定します。
省略した場合は、<resend_time>×3+1 秒を指定したものとみなされます。

<normal_interval>

- ICMP ECHO パケットの正常時送信間隔

ICMP ECHO パケットの正常時送信間隔を、<time_out>+1 秒～255 秒の範囲で指定します。単位は、m(分)、s(秒)のいずれかを指定します。

省略した場合は、<time_out>+1 秒を指定したものとみなされます。

<error_interval>

- ICMP ECHO パケットの異常時送信間隔

ICMP ECHO パケットの異常時送信間隔を、1 秒～255 秒の範囲で指定します。

単位は、m(分)、s(秒)のいずれかを指定します。

省略した場合は、30 秒を指定したものとみなされます。

[説明]

ノードトリガイイベントを設定します。

<dst_addr>で指定した宛先に ICMP ECHO パケットを<interface>で指定したインタフェースから送出し、<time_out>時間応答がない場合、トリガイイベントを適用します。<interface>が any である場合、送出先インタフェースは経路情報に依存します。

トリガイイベントが適用された場合、VRRP グループの現在の優先度から<priority>で指定した値を減算した優先度の VRRP ルータとして動作します。

<priority>で優先度を減算すると 1 以下になる場合は、優先度 1 の VRRP ルータとして動作します。

なお、VRRP グループが設定された LAN インタフェースがダウンした場合はこの限りではありません (自装置の VRRP グループは仮想ルータとして無効な状態となります)。

[注意]

<dst_addr>にはブロードキャストアドレス、マルチキャストアドレスを指定しないでください。指定した場合は正常に動作しません。

優先度を"master"に設定した VRRP グループにノードトリガを設定した場合は正常に動作しません。

ノードトリガを設定する場合は優先度を"master"以外にしてください。

ノードトリガで送信される ICMP ECHO パケットの送信元 IP アドレスは VRRP グループが設定された LAN のインタフェースアドレスとなりますので、ICMP ECHO 応答パケットの経路に注意してください。ノードトリガでは定期的にパケットが送信されますので異常課金に注意してください。

[未設定時]

ノードトリガイイベントは設定されないものとみなされます。

4.4.8 lan vrrp group trigger delete

【機能】

トリガイイベントの削除

【入力形式】

```
lan [<number>] vrrp group <vrrp_number> trigger delete <trigger_no>
```

【パラメタ】

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<vrrp_number>

削除するトリガが設定された VRRP グループを指定します。

- VRRP グループ定義番号
LAN インタフェースに対する VRRP グループ定義の通し番号を、0～1 の 10 進数値で指定します。

<trigger_no>

削除するトリガイイベントを指定します。

- トリガイイベント定義番号
削除するトリガイイベント定義の通し番号を、0～49 の 10 進数値で指定します。
- all
VRRP グループに対するすべてのトリガイイベント定義を削除する場合に指定します。

【説明】

VRRP グループに対するトリガイイベントを削除します。
VRRP グループを削除しても<vrrp_number>のソートはしません。

4.4.9 lan vrrp group delete

[機能]

VRRP グループの削除

[入力形式]

```
lan [<number>] vrrp group delete <vrrp_number>
```

[パラメタ]

<number>

- lan 定義番号
lan 定義番号として、0 を指定してください。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<vrrp_number>

削除する VRRP グループを指定します。

- VRRP グループ定義番号
削除する VRRP グループ定義の通し番号を、0～1 の 10 進数値で指定します。
- all
すべての VRRP グループ定義を削除する場合に指定します。

[説明]

VRRP グループ定義番号で指定した VRRP グループ定義を削除します。

